

ロボット・テクノロジー関連株ファンド – ロボテック – (為替ヘッジあり)

足元の運用状況と今後の見通しについて

2025年9月17日

平素は、『ロボット・テクノロジー関連株ファンド – ロボテック – (為替ヘッジあり)』をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、2025年9月16日に決算を迎えました。当期の運用状況と今後の見通しについてまとめましたので、報告申し上げます。

米国の関税政策に対する不安から一時下落したものの、貿易環境の改善や利下げの期待感から株価は上昇する結果となりました。基準価額の水準や動向等を勘案した結果、今期の分配金を400円といたしました。

引き続きお引き立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

[ご参考・収益分配方針]

①分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。

②原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。

ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

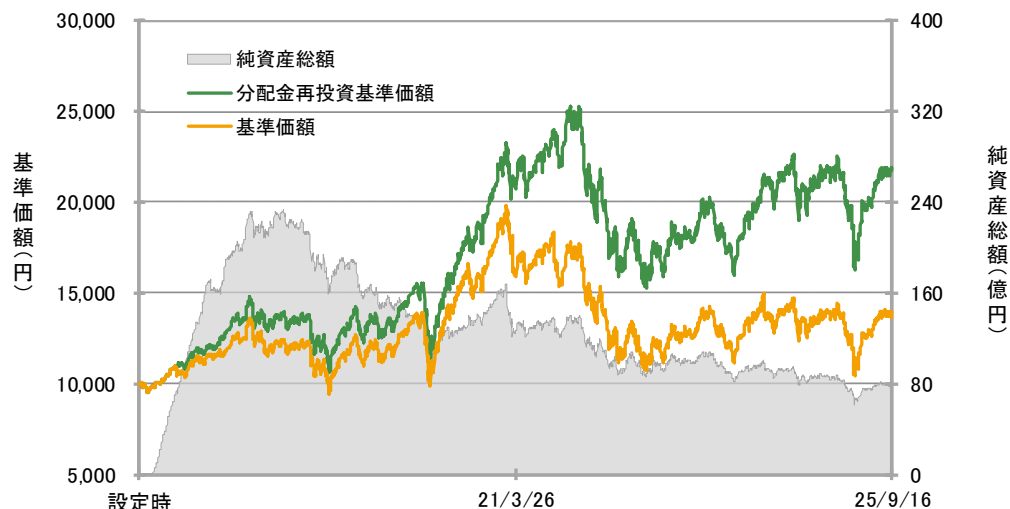
■ 基準価額・純資産の推移 (2025年9月16日時点)

当初設定日(2016年9月30日)～2025年9月16日

基準価額	13,595円
純資産総額	76億円

《分配の推移》(1万口当たり、税引前)

決算期	(年/月/日)	分配金
第1～13期	合計:	5,350円
第14期	(23/9/13)	100円
第15期	(24/3/13)	1,000円
第16期	(24/9/13)	200円
第17期	(25/3/13)	0円
第18期	(25/9/16)	400円
分配金合計額	設定来:	7,050円
	直近5期:	1,700円



※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。
 ※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

お伝えしたいポイント

- ・ 貿易協議の進展や米国の利下げ観測が支援材料となり、上昇基調で推移
- ・ 生産拠点の移転・拡充の動きや、構造的な需要拡大が追い風に
- ・ 生成AI技術が自動化分野を次の成長ステージに押し上げると想定

貿易協議の進展や米国の利下げ観測が支援材料となり、上昇基調で推移

■ 当期間の投資環境：グローバル株式市場は上昇（2025年3月12日～2025年9月15日）

当期間（2025年3月12日～2025年9月15日）のグローバル株式市場は、上昇しました。2025年6月末にかけて、米国の関税政策に対する懸念が広がる中、一時下落する場面もみられましたが、底堅い米国の経済指標や貿易協議の進展期待が好感され、上昇しました。当期末にかけては、貿易環境の改善見通しや、米国の利下げ観測が広がったことで、堅調に推移しました。

そのような環境下で、ロボット・テクノロジー関連株ファンド-ロボテック-（以下、ロボテック）の分配金再投資基準価額は、主に保有銘柄の上昇がプラス寄与したことで、上昇しました。

「ロボット・テクノロジー関連株ファンド-ロボテック-」と「世界株式」のパフォーマンス比較



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています（後述の「ファンドの費用」をご覧ください）。※「世界株式」はMSCI ACWI Net Total Return USD Indexを使用しています。また、当ファンドのベンチマークではありません。円換算は、前営業日の指数値に当日のわが国の対顧客電信売相場の仲値を乗じて算出しています。※「ロボット・テクノロジー関連株ファンド-ロボテック-」は当ファンドと同様の運用手法の別ファンドです。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

(出所) ブルームバーグ

■ セクター別では、情報技術、資本財・サービスが堅調な一方で、ヘルスケアは軟調

セクター別では、情報技術が上昇しました。当ファンドが主要投資対象としている欧米の半導体関連銘柄は、貿易環境の改善期待や米国の利下げ観測に加えて、堅調な業績発表が好材料視され、上昇しました。保有銘柄では、高性能半導体大手のエヌビディアや、半導体設計用ソフトウェアを提供するケイデンス・デザイン・システムズなどが牽引しました。

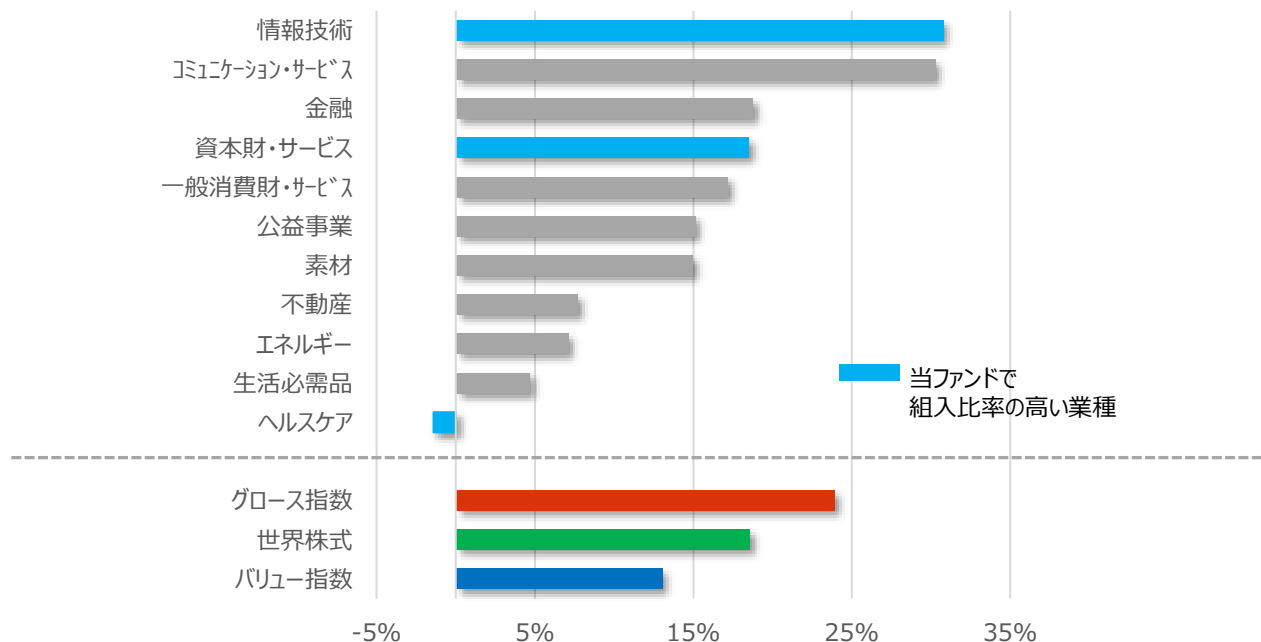
資本財・サービスは上昇しました。当ファンドが主要投資対象としている自動化関連銘柄は、貿易環境の改善期待が支援材料となり、プラスに寄与しました。保有銘柄では、倉庫自動化ソリューションを提供するダイフクや、資材運搬機器を提供するKIONグループが上昇しました。

株式市場では多くの業種で力強いパフォーマンスがみられたものの、ヘルスケアはほぼ横ばいとなりました。当ファンドが主要投資対象としているヘルスケア機器関連銘柄は下落しました。関税賦課による輸入部品のコスト上昇から利益率の悪化懸念が広がったことや、米国政府の歳出削減の影響で公的・教育機関による医療設備への投資が縮小するとの見方が重石となり、下落しました。保有銘柄では、泌尿器関連の治療用ロボットを製造するプロセプト・バイオロボティクスや、脊椎分野の手術ロボットを手掛けるグロース・メディカルが下落しました。

当ファンドでは、ヘルスケアセクターを取り巻く投資環境が悪化していることを受け、同業種の組入比率を引き下げています。一方で、より高度なAI（人工知能）が搭載された新製品の市場投入や、高付加価値な医療用ロボットに対する根強い需要が下支えになると考えており、中長期的なヘルスケアセクターの成長見通しに変更はありません。

世界株式の業種別・スタイル別パフォーマンス

(2025年3月12日～2025年9月15日)



※ (出所)Bloomberg

※世界株式・業種別指数・スタイル別指数はMSCI ACWI Net Total Return USD Index (ドル建て) を使用しています。

※ MSCI ACWI Net Total Return USD Index (ドル建て) は当ファンドのベンチマークではありません。

※「当ファンドで組入比率の高い業種」はGICS11分類による当ファンドの組入上位3業種。

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

生産拠点の移転・拡充の動きや、構造的な需要拡大が追い風に

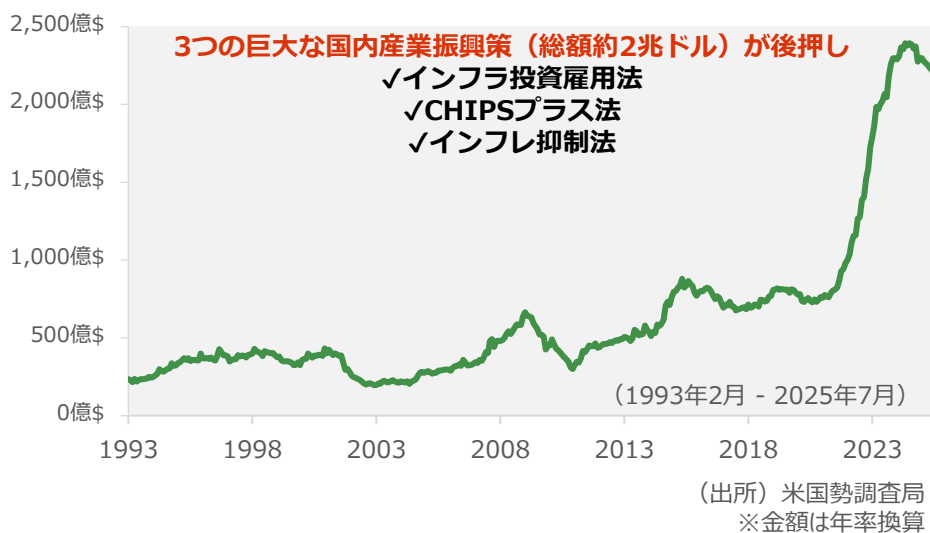
■ 関税を巡る報道が重石となる一方で、設備投資のトレンドは変わらない見通し

米国内の建設投資は、前政権下で打ち出した国内産業振興策を受けて急拡大しましたが、足元では増加傾向が一服しています。この要因として、トランプ米政権が掲げる関税政策が一因と考えられます。2025年初来で市場を大きく揺るがした関税政策について、2025年9月には連邦控訴裁判所が違法と判断するなど、不透明な貿易環境を受けて企業は設備投資に関する意思決定を一時先送りにしてきました。

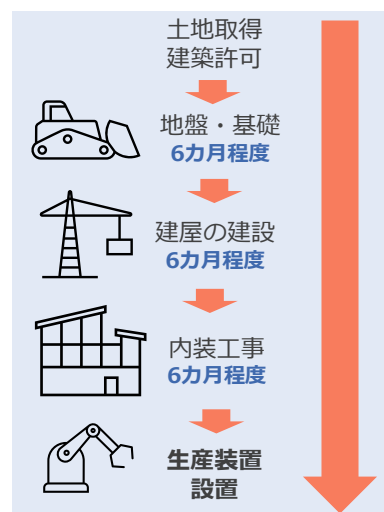
一方で、トランプ米政権の関税政策の目的は、貿易赤字の削減に加えて、米国内に生産拠点を回帰させ、ひいては自国内における生産能力の強化を促すことと考えています。実際に、一部企業では米国内における生産設備の拡充や、生産拠点を同国へ移転させる動きをみせています。2025年3月には、台湾の半導体受託生産大手のTSMCは、米国で先端半導体の生産体制を拡充するために、1,000億米ドルの投資を行うと発表しました。他にも、2025年8月には、スマートフォン製造企業のアップルが2025年2月に発表した5,000億米ドルの投資から更に1,000億米ドルを積み増して、今後4年間で米国に合計6,000億米ドルを投じると発表しました。アップルの投資は、部品供給業者と協力しつつ、米国内における生産能力の向上を目指した戦略的な動きとみられています。

関税を巡る報道が設備投資の重石となる一方で、トランプ米政権の国内回帰政策や根強いAI需要などを鑑みると、中長期的には米国内における設備投資は堅調に推移するとみています。加えて、トランプ米政権の厳格な移民規制を受け、移民人材への依存度が高い労働集約的な業界では深刻な人手不足に陥っています。このような環境で、企業側の業務効率化や自動化への構造的な需要が高まっていることから、当ファンドの投資テーマであるロボット・自動化分野への需要は拡大すると見込んでいます。

■ 米国製造業の建設投資の推移



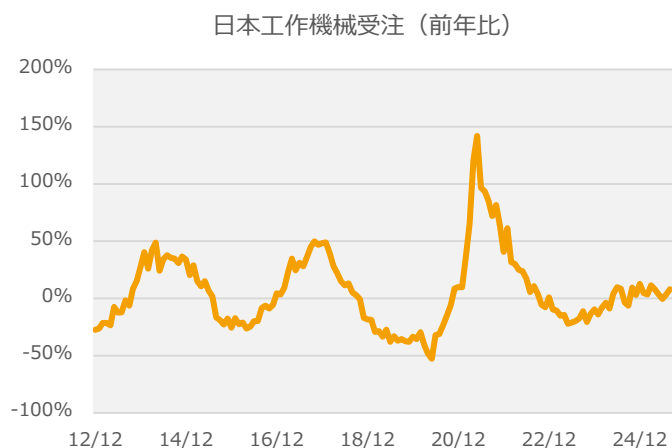
■ 工場建設の時間軸イメージ ※生産装置の設置まで2年程度



日本の工作機械受注は底堅く推移しており、工場自動化関連銘柄に恩恵が期待される

工作機械受注は、製造業の基盤を支える装置の受注状況を示すものであり、企業が今後どの程度設備投資を行うかを示す景気の先行指標として注目されています。日本の工作機械メーカーは積極的に輸出も行っていることから、同指標は海外の製造業の動向も反映しています。当ファンドでは、中長期的な成長が期待される日本の工場自動化関連銘柄を保有しており、その動向に注目しています。

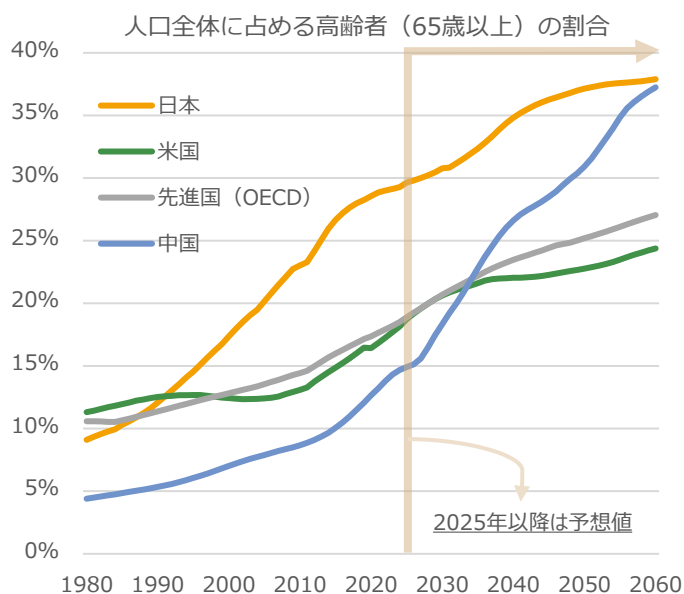
2025年初以降の工作機械受注は、貿易環境の不透明感が外需に影響を及ぼした中でも、底堅く推移しています。要因として、中国を中心としたアジア地域における生産設備の更新・拡充の動きや、構造的な工場自動化やスマートファクトリー（先端技術を用いて製造現場の効率化や最適化を図る次世代型工場）への根強い需要が挙げられます。国内に目を向けると、円安による輸出製品の競争力向上や、生産設備の更新需要が高まっていることも支援材料となりました。循環的な投資サイクルの改善も、当ファンドにとって支援材料になると考えています。



（出所）Bloomberg
期間：2012年12月末～2025年8月末

高齢化社会が進む中、深刻な労働力不足は「自動化」の構造的な需要拡大要因に

少子高齢化の進行による労働人口の減少は構造的なトレンドと考えています。その対策として、先進国の一部では移民による人口増が検討されていますが、政治的・社会的な弊害も多く、急激な改善は見込めないと思われます。労働人口の減少を前提とした経営が求められる中で、幅広い分野における省力化・効率化・自動化が急務であり、そのような課題と合致する投資テーマを掲げる当ファンドにとっては、構造的な需要拡大が恩恵になると期待しています。



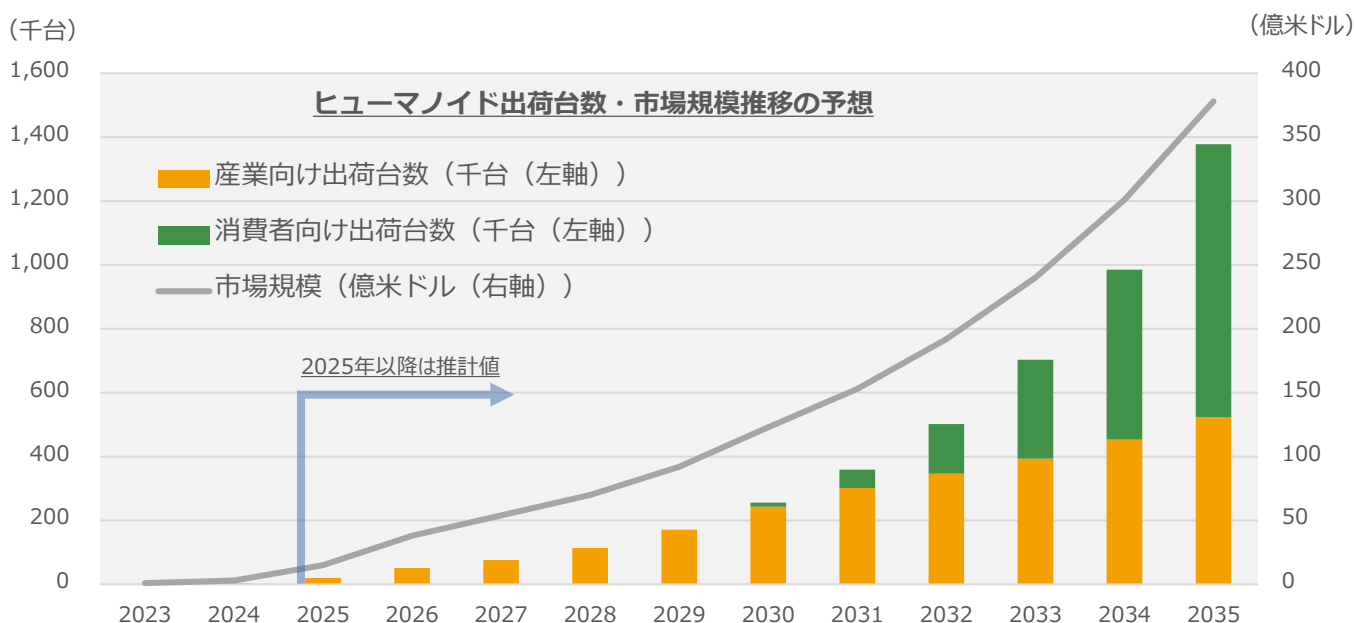
（出所）OECD Data Explorerのデータを元にAXA IMが作成
期間：1980年～2060年。2025年以降は予想値

生成AI技術が自動化分野を次の成長ステージに押し上げると想定

■ ロボット・自動化技術×生成AI技術が成長の起爆剤に

ChatGPTをはじめ、生成AI技術が急速に社会に溶け込む中、人型ロボット（以下、ヒューマノイド）への応用も進みつつあります。ヒューマノイドは様々な技術的課題を抱えていましたが、その一つがバランスを取って二足歩行を行う、という点でした。しかし、生成AI技術の発展により、様々な環境を再現した仮想空間で数えきれないほどのシミュレーションを実践し、ヒューマノイドに歩行技術をインストールすることが可能になりました。社会実装も進んでおり、既にアルファベット社などから支援を受けるアプトロニックスは「Apollo」を開発し、メルセデス・ベンツの自動車工場で稼働しています。ヒューマノイドは、生成AI技術が自動化分野の市場成長を促した一例であると考えています。

当ファンドでは、ヒューマノイドは市場の中長期的な成長要因と捉えています。ヒューマノイドの完成体を製造する上場企業は少ない一方で、部品製造企業は多く存在しており、その中でも有力な企業に投資しています。例えば、判断を司る脳の部品は高性能半導体大手のエヌビディア、視覚を担う部品はマシンビジョンを手掛けるコグネックス、関節駆動部は動作制御部品を製造するノバンタに投資しています。現状ではヒューマノイド部品としての売上高は限定的なものの、市場の加速度的な成長から恩恵を受けると見込んでいます。



(出所) Goldman Sachs Research “The global market for humanoid robots could reach \$38 billion by 2035” を元にAXA IM作成
期間：2023年～2035年。2025年以降は推計値

■ 運用方針

引き続き、ロボット・自動化関連ビジネスにおいて長期的な成長機会を提供している分野や企業に注目して投資を行ってまいります。

当ファンドは「作る」、「運ぶ」、「助ける・守る」の3つのテーマに着目し、様々なロボット関連産業の企業に投資します。

今後も、長期的な投資家として、実績の高い事業モデルを有し、大きなビジネスチャンスがあり、経営が強固な企業を選別することに注力していく方針です。

投資対象ファンド*の運用状況（基準日：2025年8月末）

* アクサIM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）

《アクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド(為替ヘッジあり)(適格機関投資家専用)の運用状況》				※比率は、組入ファンドの純資産総額に対するものです。						
※アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するデータ等を基に大和アセットマネジメントが作成したものです。										
資産別構成			株式 業種別構成		合計95.7%	株式 国・地域別構成		合計95.7%		
資産		銘柄数	比率	業種名		比率	国・地域名		比率	
外国株式		44	81.3%	半導体・半導体製造装置		26.4%	アメリカ		63.6%	
日本株式		7	14.5%	資本財		23.8%	日本		14.5%	
				ソフトウェア・サービス		14.3%	ドイツ		6.7%	
現金等			4.3%	テクノロジー・ハードウェアおよび機器		10.5%	フランス		2.9%	
合計		51	100.0%	ヘルスケア機器・サービス		8.2%	台湾		2.5%	
				一般消費財・サービス流通・小売り		4.7%	ケイマン諸島		1.7%	
				メディア・娯楽		4.4%	オランダ		1.6%	
				運輸		1.7%	カナダ		1.3%	
				医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス		1.6%	バミューダ		0.6%	
							その他		0.3%	
株式 通貨別構成			合計95.7%							
通貨名		比率								
米ドル		67.7%								
日本円		14.5%								
ユーロ		9.6%								
台湾ドル		2.5%								
香港ドル		0.9%								
ノルウェー・クローネ		0.6%								
株式 規模別構成			合計95.7%							
規模		比率								
大型株(時価総額100億米ドル超)		80.7%								
中小型株(時価総額100億米ドル以下)		15.0%								
組入上位10銘柄										合計37.6%
銘柄名			国・地域名		業種名		比率			
エヌビディア			アメリカ		半導体・半導体製造装置		7.9%			
アマゾン・ドット・コム			アメリカ		一般消費財・サービス流通・小売り		4.7%			
ケイデンス・デザイン・システムズ			アメリカ		ソフトウェア・サービス		4.1%			
キーエンス			日本		テクノロジー・ハードウェアおよび機器		3.3%			
シーメンス			ドイツ		資本財		3.2%			
ダイワ			日本		資本財		3.1%			
インテリティブサージカル			アメリカ		ヘルスケア機器・サービス		2.9%			
シュナイダーエレクトリック			フランス		資本財		2.9%			
ブロードコム			アメリカ		半導体・半導体製造装置		2.9%			
三菱電機			日本		資本財		2.7%			

※アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するデータ等を基に大和アセットマネジメントが作成したものです。※比率は、組入ファンドの純資産総額に対するものです。※上記データは、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日のデータに基づきます。※上記データは、四捨五入の関係で合計の数値と一致しない場合があります。※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準（GICS）によるものです。

ご参考：組入上位10銘柄のご紹介（2025年8月末時点）

組入上位銘柄紹介		※アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するコメントを基に大和アセットマネジメントが作成したものです。	
銘柄名(国・地域名／業種名)		銘柄紹介	
エヌビディア (アメリカ／半導体・半導体製造装置)		米国の半導体メーカー。コンピュータの画像処理などに使われるGPU(グラフィック処理装置)で高いシェア誇る。生成AIの開発競争が追い風となり、データセンター向けGPUの売り上げが急拡大し、今では同社の売上高の大半を占めている。高い製品力に加え、AI開発を支援するソフトウェアに強みを持ち、データセンター向けGPUでは圧倒的なシェアを持つ。	
アマゾン・ドット・コム (アメリカ／一般消費財・サービス流通・小売り)		幅広い商品を取り扱うオンライン小売。搬送ロボット・メーカーのKiva Systemsを買収後、10年超にわたり物流の自動化ソリューションを開発・導入している。同社の物流拠点ではすでに75万台超のロボットが稼働しており、迅速なサービスの実現に貢献している。また、収益源の柱のひとつであるクラウド事業の今後の成長性も期待されている。	
ケイデンス・デザイン・システムズ (アメリカ／ソフトウェア・サービス)		米国の半導体開発用ソフトウェア・メーカー。半導体企業向けにEDA(半導体や電子機器の設計作業を自動で行う)ツール、半導体のIP(半導体を構成する部分的な集積回路資産)を提供し、顧客の設計と開発のコスト削減、製品を市場投入する時間の短縮などを支援している。	
キーエンス (日本／テクノロジー・ハードウェアおよび機器)		FA(工場生産の自動化)向けセンサーを中心に、測定器や画像処理機器の企画・設計・開発・生産を行う。自動車や半導体、電子・電気機器、通信、機械、化学、薬品、食品など、幅広い業界を相手に事業展開する。新商品の約70%が世界初・業界初の商品であり、自動化による生産性向上、安全性向上、環境・省エネ対策など、生産現場の課題解決につながる付加価値の高い提案力に強みを持つ。	
シーメンス (ドイツ／資本財)		グローバルに展開するドイツの総合エンジニアリング企業。FA(工場生産の自動化)向けのソフトウェアにおけるリーディング・プロバイダー。1つのシステムですべてのオートメーションのアプリケーションに応えられるソリューションを提供。今後、工場のスマート化が進むにつれ、需要の拡大が見込まれる。	
ダイワク (日本／資本財)		さまざまな分野において、保管、搬送、仕分け・ピッキング、情報システムというマテハンの多様な要素を組み合わせ最適・最良のソリューションを提供。	
インテュイティブサージカル (アメリカ／ヘルスケア機器・サービス)		「ダビンチ・システム」という手術支援ロボットを製造・販売。優れた3D(三次元)高解像度画像と、ロボットアームによる微細な操作により、患者の身体的な負担を軽減する低侵襲手術の成功率を上げている。同社の手術支援ロボットは、2023年末時点で71か国で導入されており、2023年1年間の手術件数は220万件超に及ぶ。	
シュナイダーエレクトリック (フランス／資本財)		フランスを拠点とする電気機器・産業機器メーカー。2023年1月に産業用ソフトウェアのグローバルリーダーである英国のAVEVAを買収。ビル、データセンター、電力インフラや工場向けに、エネルギー管理と自動化関連のDXソリューションをグローバルに提供している。	
ブロードコム (アメリカ／半導体・半導体製造装置)		米国の半導体・インフラソフトウェアソリューションメーカー。半導体、エンタープライズソフトウェア及びセキュリティソリューションの設計・開発・供給を行うグローバルな技術企業である。半導体ソリューション及びインフラソフトウェアの2つのセグメントを通じて事業を展開する。	
三菱電機 (日本／資本財)		日本の電気機器を製造、販売する大手総合電機メーカー。同製品には産業機器をはじめ重電機器、データ通信システム、電子機器、家庭電器製品を含む。	

※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)の産業グループによるものです。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- ・日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資し、値上がり益を追求することにより、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

- ・日本を含む世界のロボット関連企業の株式に投資します。
- ・株式の運用は、アクサ・インベストメント・マネージャーズが担当します。
- ・毎年 3 月 13 日および 9 月 13 日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。**基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

株価の変動 (価格変動リスク・信用リスク)	株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。 発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 当ファンドは、特定の業種への投資比率が高くなるため、市場動向にかかわらず基準価額の変動が大きくなる可能性があります。 新興国の証券市場は、先進国の証券市場に比べ、一般に市場規模や取引量が小さく、流動性が低いことにより本来想定される投資価値とは乖離した価格水準で取引される場合もあるなど、価格の変動性が大きくなる傾向が考えられます。
為替変動リスク	為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。 一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行なわないまたは他の通貨で代替した為替取引を行なう場合があるため、為替変動の影響を受けることがあります。 なお、為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。
カントリー・リスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。 新興国への投資には、先進国と比べて大きなカントリー・リスクが伴います。
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
購 入 時 手 数 料	販売会社が別に定める率 (上限) 3.3%(税抜3.0%)	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引 執行等の対価です。
信 託 財 産 留 保 額	ありません。	—

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
運 用 管 理 費 用 (信 託 報 酬)	年率1.2375% (税抜1.125%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して 左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され 日々の基準価額に反映されます。
配 分 (税抜) (注1)	委託会社	ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、 目論見書・運用報告書の作成等の対価です。
	販売会社	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後 の情報提供等の対価です。
	受託会社	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。
投資対象とする 投資信託証券 (目論見書作成時点)	年率0.5775% (税抜0.525%)	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運 用 管 理 費 用 (目論見書作成時点)	年率1.815%(税込)程度	
そ の 他 の 費 用・ 手 数 料	(注2)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプ ション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等 を信託財産でご負担いただきます。

(注1)「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

お申込みメモ

購入単位	最低単位を 1 円単位または 1 口単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万口当たり）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払い下さい。
換金単位	最低単位を 1 口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万口当たり）
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して 6 営業日目からお支払いします。
申込受付中止日	ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所、ニューヨークの銀行またはロンドンの銀行のいずれかの休業日 （注）申込受付中止日は、販売会社または委託会社にお問合わせ下さい。
申込締切時間	原則として、午後 3 時 30 分まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの） なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態による市場の閉鎖または流動性の極端な減少ならびに資金の受渡しに関する障害等）が発生した場合には、購入、換金の申込みの受付を中止すること、すでに受付けた購入の申込みを取消すことがあります。
繰上償還	◎主要投資対象とするアクサ IM・グローバル・ロボット関連株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）が存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了（繰上償還）させます。 ◎次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還できます。 ・受益権の口数が 30 億口を下ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	年 2 回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 （注）当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。 なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に NISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。 当ファンドは、NISA の「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

設定・運用:

商号等

加入協会

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

Daiwa Asset Management

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドに関するお電話でのお問い合わせ

☎0120-106212

(受付時間：営業日 9：00～17：00)

※お客様のお取引状況・その他口座内容に関するご照会はお取引先の銀行、証券会社等の金融機関にお問い合わせください。

URL <https://www.daiwa-am.co.jp/>

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

ロボット・テクノロジー関連株ファンドーロボテックー（為替ヘッジあり）

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社イオン銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○	○		
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社）	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○	○		
株式会社関西みらい銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第7号	○	○		
株式会社京葉銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第56号	○			
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○	○		
株式会社大光銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第61号	○			
株式会社但馬銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第14号	○			
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○	○		
株式会社北洋銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第3号	○	○		
株式会社北洋銀行 （委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社）	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第3号	○	○		
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○	○	○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○	
岩井コスモ証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第15号	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○		○
岡三にいがた証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第169号	○			
GMOクリック証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第77号	○	○		
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第37号	○			
島大証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第6号	○			
大和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第108号	○	○	○	○
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長(金商)第1号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
moomoo証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第3335号	○		○	
豊証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第21号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。